MAX STUDY GROUP

Vol. 1　2015 年 10 月 3 日

第1回　レポート

A　テーマ設定

初回は、「アクティブラーニング」をテーマに設定しました。

本来なら、時代の動き、ビジョン、人材像というマクロな部分からスタートするべきなのかもしれませんが、初回ということで、抽象的な議論よりも、より具体的で実践に基づいたテーマのほうが、各自の教育に関連付けやすく、また議論も活発になるだろうと考えました。そこで、今、教育界を席巻している最大のキーワード「アクティブラーニング」に焦点を当て、その方法論と実践をテーマに設定しました。

B　プログラム

1　アイスブレーキング＆エンカウンター：　ペアコーチング

まずは 2 人 1 組になって、コーチングのコンセプトにのっとったアイスブレーキング＆エンカウンターを行いました。会話の中心は話し手ですが、アクティビティーの中心は聞き手です。聞き手には、「相手は自分自身のことでも、しっかりと整理できていない部分があります。解決策に導くのではなく、相手の話を聞き出し、その中で相手が問題点をクリアにできるように手伝いをしてください」という指示を出しました。その後、聞き手が「こういうことだよね、こういうように感じたよ」と相手にフィードバックをしました。

最初はぎこちない感じもありましたが、すぐにみんな本気の悩み相談（一部愚痴？）になってきて、ずいぶん口も軽くなりました。今回はあくまでもアイスブレーキングとして行ったので、詳細は割愛しますが、今後どこかでコーチングをテーマにセッションを企画したいと思っています。

２　アクティブラーニング　概論

さて、いよいよアクティブラーニングの本題です。まず私から皆さんにこのような問いを投げかけました。

アクティブラーニングは必要だと思いますか、そしてそれはなぜですか。

何人か参加者に聞きましたが「重要だ」という答えがそろい、「発信することが重要」「教員からの一方通行の授業ではだめ」「自分で考えて課題に向き合うことが大切」というような意見が出ました。

なるほど。でも、私のこの質問の意図は、別にありました。次にこのような質問をしました。

では、アクティブラーニングとは何ですか。

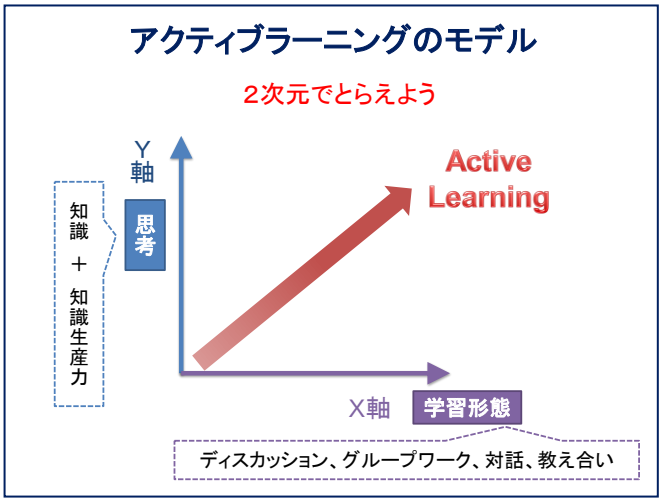
うーん、、、と少し考えてから、「生徒が主体的に学ぶ」「受身じゃない」「生徒が考える授業」など、いろいろな言葉が出てきました。流行のように使っている言葉なはずなのに、いざ何かと問われると答えに戸惑ってしまいます。

これが質問の意図です。アクティブラーニングという言葉は聞こえがよく、教育界の話題をさらっているキーワードなのですが、その言葉はなんとなく使われていて、曖昧なまま、都合の良いように使われています。アクティブラーニングとはそもそも何なのか、ここをクリアにしないと、アクティブラーニングをどう取り入れていくのかという方法論も、そもそもそれが必要なのかどうかという是非も議論できません。このアクティブラーニング゛という言葉にせよ、グローバルという言葉にせよ、なんとなくプラスのニュアンスを帯び、なんとなくかっこ良いマジックワードは、定義なしになんとなく広まってしまいます。だからこそ、「そもそもこれは何ぞや」、そこから始めないといけないわけです。

アクティブラーニングがアメリカで提唱された時には、そこまで「思考力」ということが謳われていたわけではありません。あくまでも、もっと単純に「Teaching から Learning に焦点を移行しよう」、「生徒が積極的に参加する授業形態をとろう」ということが中心だったかと思います。「どう教えるか」から「どう学ぶか」という意識の変化を促したものと言えます。

しかし、21 世紀型教育へのパラダイムシフトに伴って、現代日本の教育において、思考力ということが大きな注目を浴びています。その流れの中、アクティブラーニングは「参加型の授業形態」という軸にとどまらず、「思考力の育成」という軸からも議論されることになりました。

そこで、私のモデルを提示しました（右図）。X 軸に学習形態を取り、Y 軸に思考レベルを取る 2 次元のモデルです。詳しくは、Max Classroom.net「21 世紀型教育　アクティブラーニングのモデル」を参照にしてください。



しかし、ここでもう 1 つ問題が出てきました。「考える」というけど、じゃあ「考えるって何ぞや」ということです。

3　アクティブラーニング　概論ワークショップ

先ほどの図では、Y 軸＝思考力として上に矢印が伸びています。ということは、思考には高低のレベルがあるということですね。では、いったいそれは何なのか、ここを突き詰めなくてはなりません。

私のほうから出した問いはこれです。

「フランスの首都はどこですか」、これは単純に知識を問う問題です。
では、思考力を問う問題を考えてください。

5 分ほどペアでこの問題に取り組みました。議論を全体で共有した後、私のほうから 6 つの例題をもとに以下のような問いを提示しました。

Q1：　各問がどのようなスキルや思考を求めているか明らかにしてください。
Q2：　あえて思考レベルを質的な点から2つに分けるとしたら、どのレベルとどのレベルの間で分けますか。その理由も答えてください。

レベル1：　フランスの首都はどこですか。
レベル2：　フランスの首都の特徴を答えなさい。
レベル3：　フランスの首都と日本の首都の類似点、相違点を答えなさい。
レベル4：　フランスの首都はなぜパリなのか答えなさい。
レベル5：　フランスの首都の問題点を指摘し、解決策を答えなさい。
レベル6：　首都に代わる新たな体制を提案しなさい。

ペアディスカッションをしたのですが、ずいぶん色々な考えをぶつけながら、各ペアまとめていたようです。

その後、全体で共有したのですが、「問題疑い能力」など面白い答えも飛び出しました。一方で、レベル1とレベル 2 の違いについてははっきりとした説明を提示できないペアも多かったかと思います。

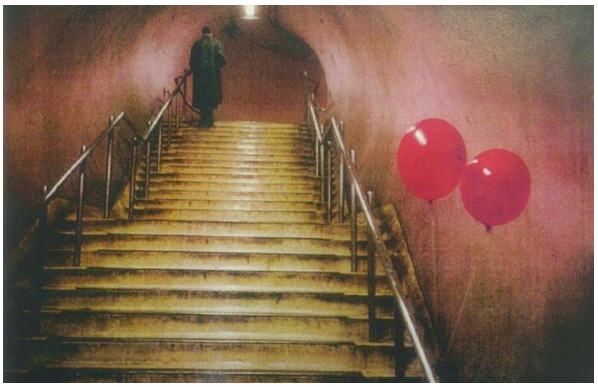
どこで思考レベルの質的線引きをするかという問いに関しては、レベル 3 と 4 の間という人が多かったですが、2 と 3 の間、4 と 5 の間と答えた人もいました。「客観的思考 vs 主観的思考」、「思考のベース vs 思考そのもの」などといった線引きの理由が出ました。また、「レベル 6 まで取り組んだ後にレベル 2、3 に戻ったら、もう単純な問題ではなくなり、次元が変わるのではないか」という意見が出ましたが、これはなるほど一、と思いましたね。さらに、「レベル 7 を考えよう」と話し合ったペアもありました（これは次回までの宿題となりました）。なかなか面白いディスカッションだったと思います。

私の解説はこれまた Max Classroom.net「21 世紀型教育　思考のレベル」をご一読ください。また、Q2 の私の答えは、レベル 3 と 4 の間です。私の基準はずばり「大学の卒論になるかどうか」ということです。知識を答えるのではなく、「仮説を基に新しい解を出す」ということを高い思考と設定したからです。

ディスカッション後、インテルがまとめたブルームの思考スキルの資料を配布し、まとめを行いました。また、自分の思考を客観的に把握する「メタ認知」という概念をさらっと共有しました。

最後は、次回使う絵を基に、どのようなアクティブラーニングができるかブレインストーミングを行いました。

C　次回に向けて



次回は、イントロのワークショップとして、右の絵を使ってアクティブラーニングのプラニングを行います。ある大学の医学部の入試で出た絵です。イギリスのキングクロス駅（ハリーポッターにも出てきた駅）の写真です。さて、皆さんは、この絵を使ってアクティブラーニング組み立てろと言われたら、どうしますか。

実は、私の現在の勤務校で 2015 年 6 月に全国私学アクティブラーニング研究会が行われました。私も英語科主任として教科を代表して模擬授業を披露したのですが、その時に、題材として与えられたものがこの絵です。この絵がアクティブラーニングの題材として適切かどうかは別として、皆さんにも同じ状況に立って実践してもらおうと思います。もちろん、私のその時の模擬授業も共有し、議論のネタにしてもらいます。その後、教科の題材を実際に使って、より実践的なプラニング、問題点などを議論していく予定です。